

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中(平成28年4月～6月)、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、平成28年10月19日現在、3号機、4号機及び5号機については施設定期検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

～東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の教訓から～

浜岡原子力発電所周辺地域の安全確保のために 新たなオフサイトセンターのスタート

原子力発電所で緊急事態が発生した場合に、現地に関係機関が集まり、連携した応急措置を講じられるよう、拠点となる施設(オフサイトセンター)を設置することが法律で決められています。

福島県に設置されたオフサイトセンターは、平成23年3月11日の東日本大震災の発生直後に停電し、非常用発電機も故障して、通信手段や重要な設備の多くが使用できなくなり、また、福島第一原子力発電所から約5kmしか離れておらず、建物内の放射線量が上昇したため、福島県庁へ機能を移転せざるを得なくなりました。

この経験を踏まえ、国はオフサイトセンターの要件を見直し、原子力発電所から5～30km圏内の立地、空気浄化フィルターの設置などの基準を平成24年9月に決めました。

御前崎市内に設置されていた静岡県のオフサイトセンターは、浜岡原子力発電所から2.3kmの

地点にあり、立地場所の要件に抵触しました。そのため、原子力発電所から19.6kmにある富士山静岡空港隣接地に建設された原子力防災センター(平成28年3月竣工)に移転作業を行い、今年の7月1日に新たなオフサイトセンターとして国から正式に指定されました。

新オフサイトセンターは、免震装置や空気浄化フィルターなど、災害発生時に拠点施設として機能を発揮できるように必要な設備が設けられています。



▲ 原子力防災センター外観

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局 静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>

原子力だより

平成28年4月から6月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るために行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

平成28年4月～6月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、人工放射性物質による年間被ばく量は、最大限に見積もっても0.001ミリシーベルト未満/年であり、**公衆の年間被ばく線量限度である1ミリシーベルト/年の1/1,000未満と十分に低く、健康への影響は心配ないレベル**でした。

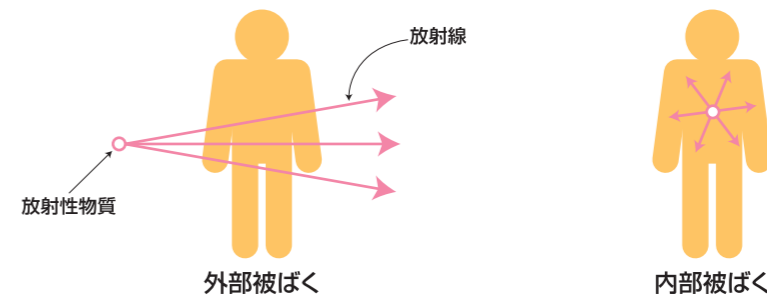
人工放射性物質による年間被ばく量(推計)

0.001 ミリシーベルト未満

この年間被ばく量は、調査結果から平成28年度1年間の人工放射性物質による放射線の量を最大限に見積もって推計しました。

被ばく量の推計方法

被ばくには、身体の外部からの放射線による被ばく(外部被ばく)と、体内に取り込まれた放射性物質からの放射線による被ばく(内部被ばく)があります。



年間被ばく量は、1年間の外部被ばく量の推計値と内部被ばく量の推計値の和です。

1年間の外部被ばく量の量

① 0 ミリシーベルト

1年間の内部被ばく量の量

② 約0.00027 ミリシーベルト

年間被ばく量

約0.00027 ミリシーベルト < 0.001 ミリシーベルト

① 1年間の外部被ばく量は、空間の放射線を測定した結果(最大値)から推計しました。

⇒ 空間の放射線の測定(p2)をご覧ください。

② 1年間の内部被ばく量は、農産物などの環境試料を測定した結果(最大値)から推計しました。

⇒ 農産物などの放射能の測定(p3)をご覧ください。

放射能調査に用いる単位

- グレイ(Gy) …… 放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位
- シーベルト(Sv) …… 吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位
- ベクレル(Bq) …… 放射能の量を表す単位

《参考》

- ミリ(m) …… 1/1,000 千分の1
- マイクロ(μ) …… 1/1,000,000 百万分の1
- ナノ(n) …… 1/1,000,000,000 10億分の1

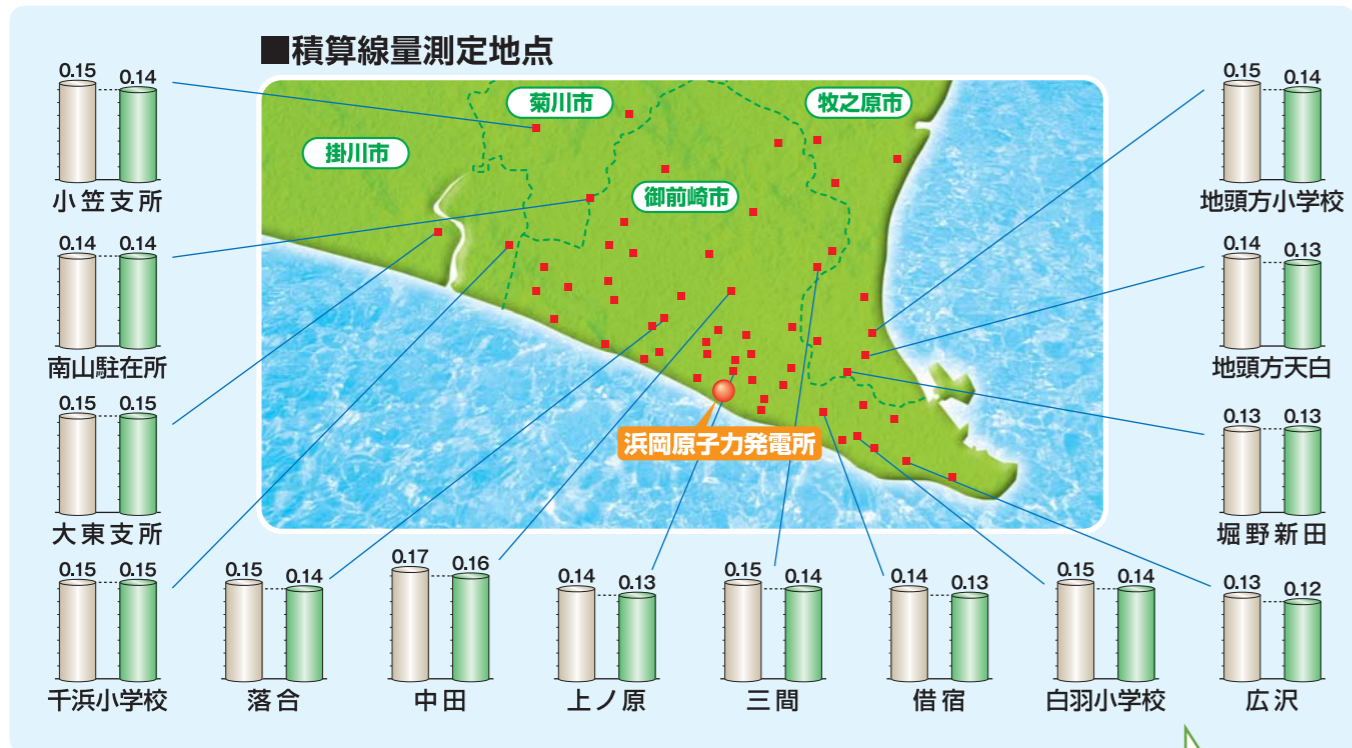
No. 170

空間の放射線の測定①1年間の外部被ばく量の推計

測定結果について

3か月間の放射線量(積算線量)

4市に設置した57か所のモニタリングポイントにおいて、空間の放射線が平成28年4月～6月の3か月間(90日換算)でどのくらいになるかを測定しました。過去(震災前)10年間の最大値を超える値となった地点はありませんでした。なお、地図に示す14か所の測定結果をグラフにしました。



積算線量の測定

空間を飛び交う放射線の量を測定しています。積算線量の測定は、モニタリングポイントに設置した蛍光ガラス線量計を3か月毎に回収し、線量読取装置で測定します。

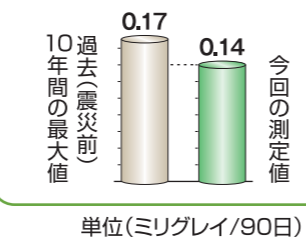


モニタリングポイント



蛍光ガラス線量計と収納容器

グラフの見方



1年間の外部被ばく量の推計について

3か月間の放射線量(積算線量)が、過去(震災前)10年間の最大値を超過した量の最大値を、1年間累計して算出しました。

3か月の期間	過去(震災前)10年間の最大値を超過した値	
平成28年 4月～ 6月	超過なし	—
平成28年 7月～ 9月	超過なし ^{※2}	—
平成28年 10月～ 12月	超過なし ^{※2}	—
平成29年 1月～ 3月	超過なし ^{※2}	—
合計	1年間の外部被ばく量	①0ミリシーベルト

× 0.8
1ミリグレイ=0.8ミリシーベルト^{※1}

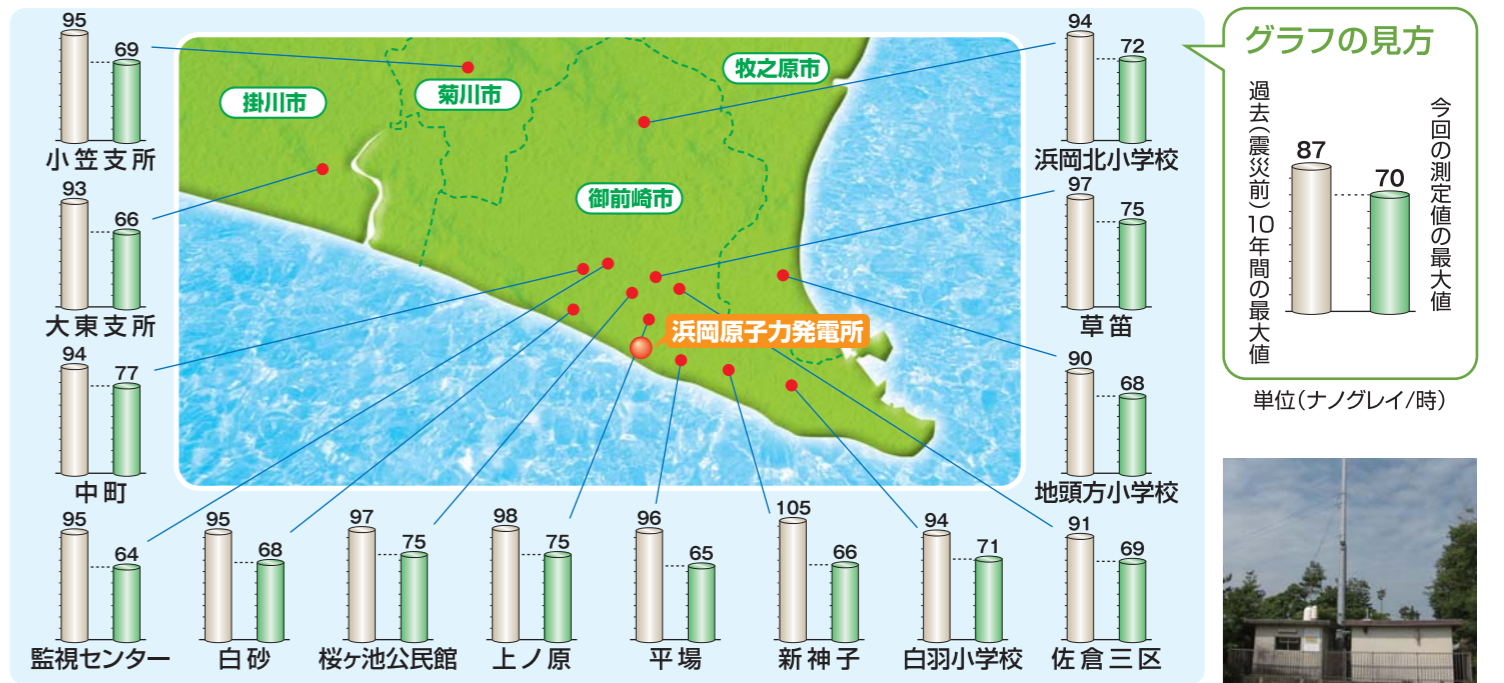
※1 環境放射線モニタリング指針(平成20年原子力安全委員会)に基づく。

※2 未だ測定結果を得ていないので、平成28年4月～6月の値がそれ以降年度末まで継続すると仮定。

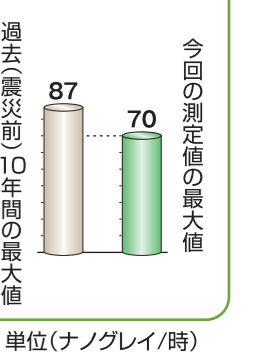
その他の測定結果

1時間当たりの放射線量(線量率)

モニタリングステーション(14か所)において、空間の放射線が1時間当たりどのくらいかを連続して測定しています。平成28年4月～6月で過去(震災前)10年間の最大値を超える値を測定した地点はありませんでした。



グラフの見方



モニタリングステーション

線量率の測定

浜岡原子力発電所周辺の空間を飛び交う放射線の量が平常値かどうか24時間監視しています。線量率は、モニタリングステーションに設置した空間ガンマ線量率測定装置で連続測定します。

農産物などの放射能の測定結果

平成28年4月～6月

(Cs:放射性セシウム, Sr:ストロンチウム90, ³H:トリチウム, I:ヨウ素131)

試料名	地点名	測定値	過去(震災前10年間)の変動幅	単位	
浮遊塵	御前崎市:白砂、中町、平場、白羽小 牧之原市:地頭方小	Cs: *~0.038	*	mBq/m ³	
降下物	御前崎市池新田	Cs: 0.072~0.14	*~0.12	Bq/m ²	
陸水	上水	御前崎市:市役所、新神子	Cs: * ³ H: 330~800	*~910	mBq/L
	井水	御前崎市塩原新田	Cs: *	*	
土じょう	御前崎市:下朝比奈、新神子 牧之原市:笠名	Cs: 6.6~16.7	1.7~10.0	Bq/kg乾土	
農畜産物	玉ねぎ	御前崎市池新田	Cs: *	*	Bq/kg生
	茶葉	御前崎市:法ノ沢、門屋、新谷 牧之原市:笠名 菊川市:川上原	Cs: 0.12~0.38 Sr: *~0.049	*~0.080 *~0.51	
	原乳	菊川市嶺田 掛川市下土方	Cs: *~0.031 Sr: *	*~0.029 *~0.022	
指標生物	松葉	御前崎市:池新田、平場前、白砂	Cs: 0.12~0.24 I: *	*~0.22 *	Bq/kg生
	松葉(対照地点)	浜松市田尻	Cs: 0.071~0.092 I: *	*~0.10 *	
海水	浜岡原子力発電所周辺海域	Cs: *~3.8	*~4.1	mBq/L	
		³ H: *~710	*~880		
海底土		Cs: *~2.6	*~2.7	Bq/kg乾土	
海産生物	しらす	菊川沖	Cs: 0.071~0.084 Sr: *	*~0.071 *	Bq/kg生
	あじ	相良沖	Cs: 0.20~0.23	0.10~0.23	
	たこ	地頭方沖	Cs: *~0.030	*	
その他	海岸砂	浜岡原子力発電所放水口付近	Cs: *	*	Bq/kg乾土

注1) 「*」は、「検出されず」を示す

農産物などの放射能の測定〈②1年間の内部被ばく量の推計〉

測定結果について

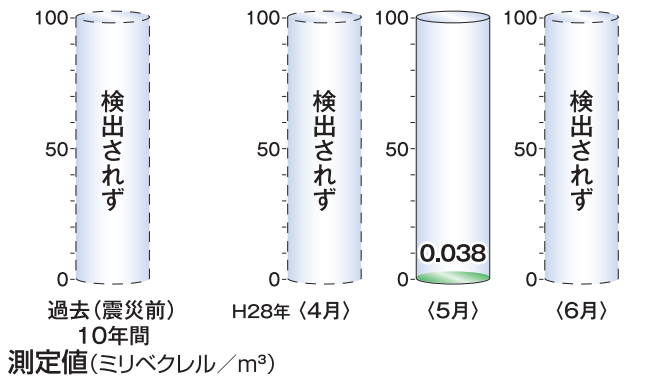
浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。

平成28年4月から6月の間に測定した試料の大半は、過去（震災前）10年間の最大値以下でした。一部の試料については、これを上回るものがありましたが、いずれも国の基準等を大きく下回るものでした。

検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故の影響によるものと推定しました。

代表的な試料の放射性セシウム137の測定値の最大値

浮遊塵

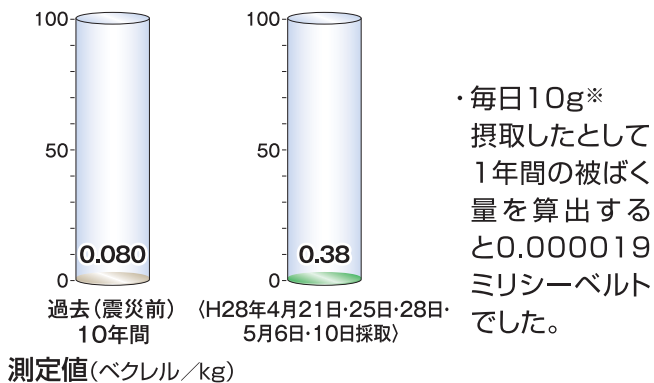


- ・浮遊塵により、空気の吸引による被ばく量を推計します。
- ・1か月間採取した浮遊塵を1試料として毎月測定した値です。

食品

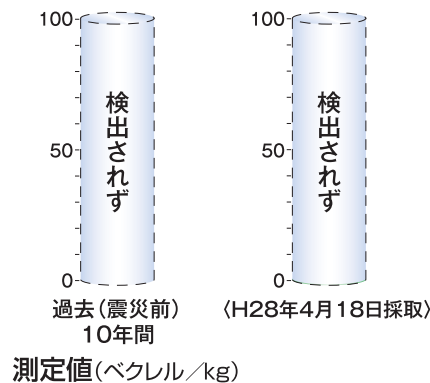
① 茶葉

参考:食品衛生法に基づく放射性物質の基準値100ベクレル/kg



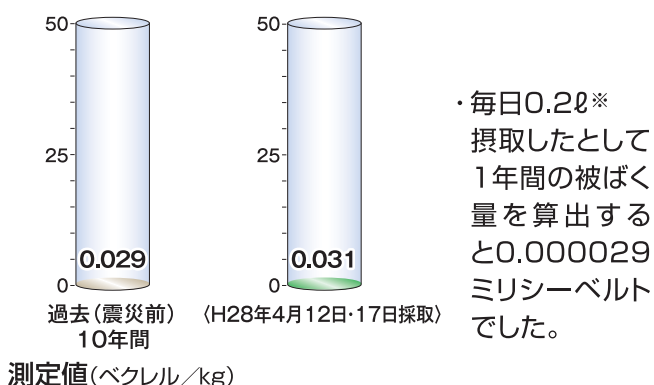
② 玉ねぎ

参考:食品衛生法に基づく放射性物質の基準値100ベクレル/kg



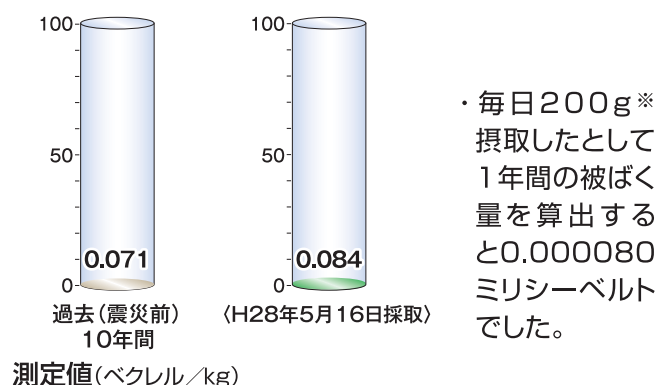
③ 原乳

参考:食品衛生法に基づく放射性物質の基準値50ベクレル/kg



④ しらす

参考:食品衛生法に基づく放射性物質の基準値100ベクレル/kg



※摂取量は「環境放射線モニタリング指針」平成20年（原子力安全委員会）などから引用

1年間の内部被ばく量の推計について

1年間の内部被ばく量は、1年間の空気の吸引による被ばくのと、1年間の食品の摂取による被ばくとの量の和です。

空気の吸引による被ばく量	0.000001ミリシーベルト
食品の摂取による被ばく量	0.000271ミリシーベルト
合計	1年間の内部被ばく量 ②約0.00027ミリシーベルト

端数処理により、「合計の値」と「空気の吸引による被ばく量と食品の摂取による被ばく量の和」が一致しないときがあります。

○〔空気の吸引による被ばく量〕

浮遊塵を含む空気を毎日22.2m³、1年間吸引するとして、年間の被ばく量を算出しました。浮遊塵の放射能の値は、毎月の測定値の最大値を使用しました。

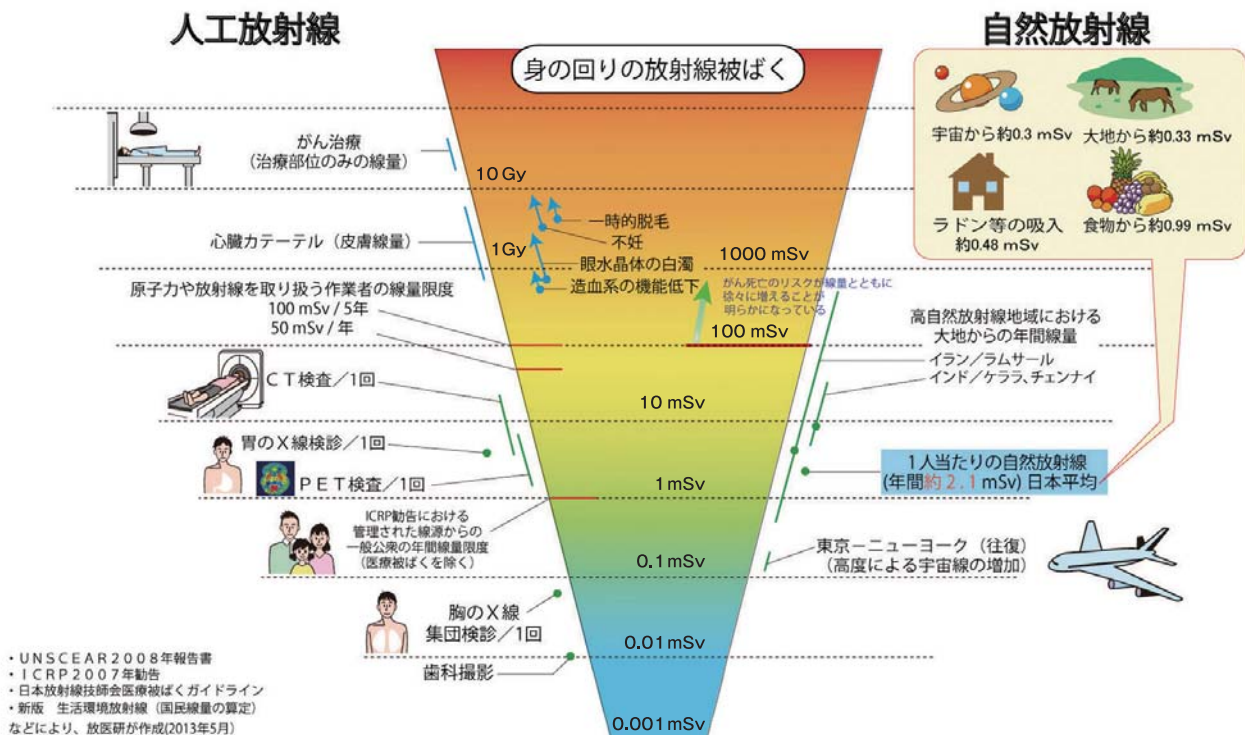
○〔食品の摂取による被ばく量〕

毎日、野菜(たまねぎ)100g、原乳0.2ℓ、魚(あじ)200g、無脊椎動物(たこ)20g、及び茶葉10gを1年間摂取するとして、年間の被ばく量を算出しました。これらの食品の放射能の値は、今年度測定した最大値を使用しました。

※吸引量及び摂取量は「環境放射線モニタリング指針」平成20年(原子力安全委員会)などから引用

日常生活と放射線

私たちは、日常生活の身近なところで自然や人工のさまざまな放射線を受けて暮らしています。これらの放射線の量に比べて、**今回推計した年間被ばく量0.001ミリシーベルト未満(p1)**は、とても低い量であることが分かります。



【ご注意】
 1) 数値は有効数字などを考慮した概数です。
 2) 目盛(点線)は対数表示になっています。
 目盛がひとつ上がる度に10倍となります。
 3) この図は、引用している情報が更新された場合変更される場合があります。

Q 原子力災害時になぜ安定ヨウ素剤が有効なのですか?

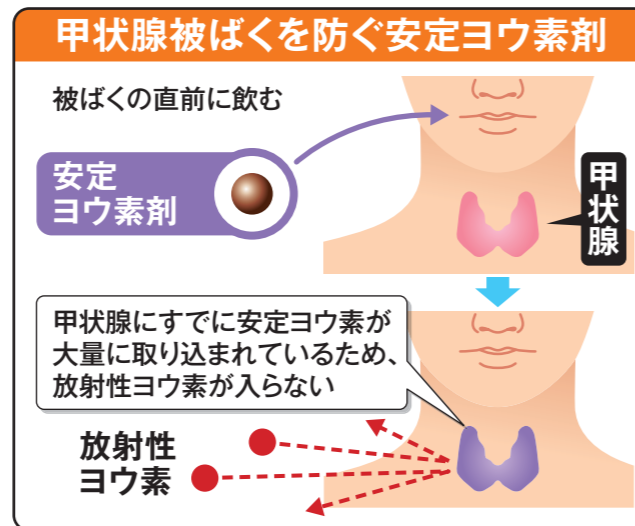


A 原子力施設に事故がおきると、放射性セシウムなどの放射性物質が施設から放出される場合があります。そのうち放射性ヨウ素は、呼吸や食物とともに体の中に取り込まれ、体の喉のあたりにある甲状腺という部位に集まる特徴があります。甲状腺に取り込まれた放射性ヨウ素は、甲状腺がんを引き起こすおそれがあります。

これに対し、前もって安定ヨウ素剤(図1)を飲むと、安定ヨウ素が甲状腺に取り込まれて、放射性ヨウ素が甲状腺に集まることを防ぐことができます。甲状腺に取り込まれなかった放射性ヨウ素は、多くが尿や便から排出されるので、発がんの危険性(リスク)を低くすることが出来るのです(図2)。



▲図1 安定ヨウ素剤(ヨウ化カリウム丸)



▲図2 安定ヨウ素剤の甲状腺への作用

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中(平成28年7月~9月)、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、平成28年12月26日現在、3号機、4号機及び5号機については施設定期検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局
静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>



▲今年9月より、PAZ圏内(御前崎市の全域及び牧之原市の一部地域)の住民を対象に、原子力災害時に備えた安定ヨウ素剤の事前配布が実施されました。安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素による甲状腺の内部被ばくを軽減する効果があります。

平成28年7月から9月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

平成28年7月~9月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、**健康への影響は心配ないレベルでした。**

(詳細は次ページ)

平成28年7月～9月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

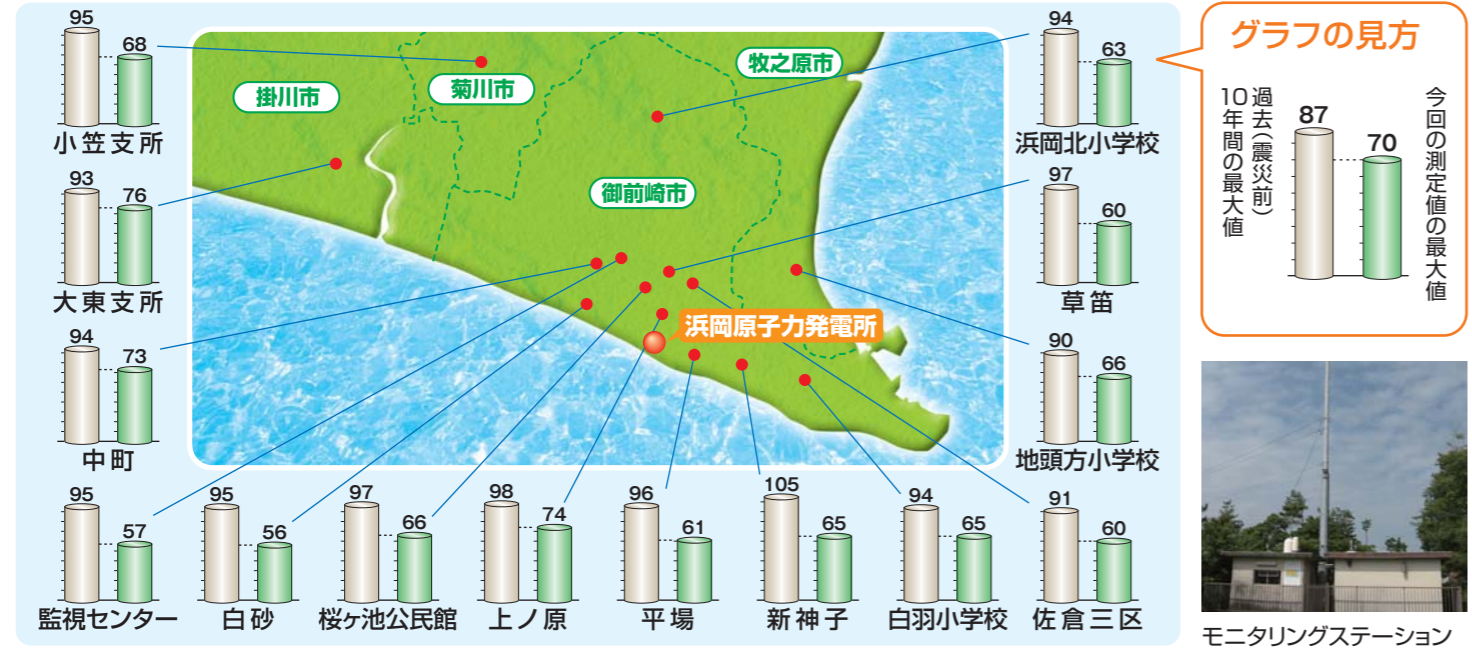
浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。
東日本大震災に伴う、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

空間の放射線の測定

▶1時間当たりの放射線量(線量率)

単位：ナノグレイ/時

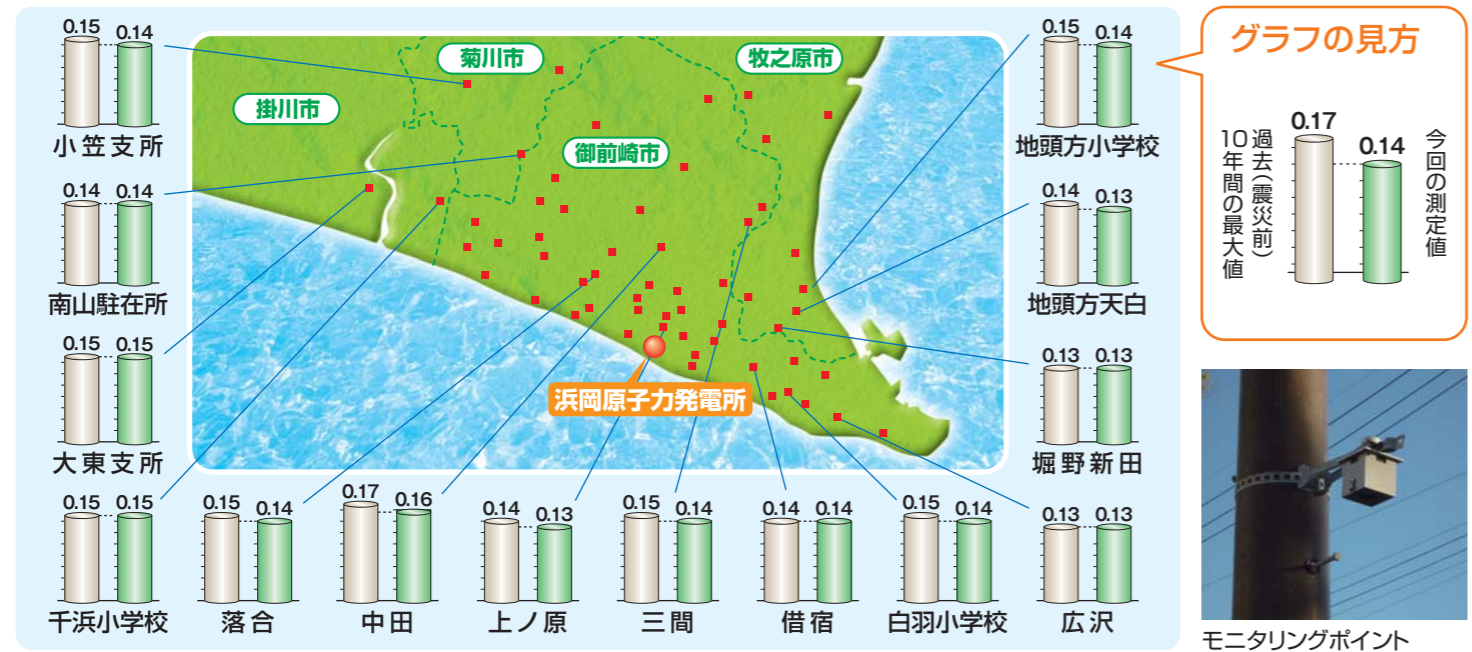
モニタリングステーション(14か所)において、空間の放射線が1時間当たりどのくらいかを連続して測定しています。平成28年7月から9月で過去(震災前)10年間の最大値を超えた地点はありませんでした。



▶3か月間の放射線量(積算線量)

単位：ミリグレイ/90日

57か所のモニタリングポイントにおいて、空間の放射線が平成28年7月から9月の3か月間(90日換算)でどのくらいになるかを測定しました。過去(震災前)10年間の最大値を超えた地点はありませんでした。



放射能調査に用いる単位

- グレイ(Gy)……放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位
- シーベルト(Sv)……吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位
- ベクレル(Bq)……放射能の量を表す単位

- 【参考】
- ミリ(m)……1/1,000 千分の1
 - マイクロ(μ)……1/1,000,000 百万分の1
 - ナノ(n)……1/1,000,000,000 10億分の1

農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。
平成28年7月から9月の間に測定した試料の大半は、過去(震災前)10年間の最大値以下でした。一部の試料については、これを上回りましたが、いずれも国の基準等を大きく下回るものでした。
検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故の影響によるものと推定しました。

▶代表的な試料の放射性セシウム(放射能)の測定値の最大値



今回の「空間の放射線の測定」および「農産物などの放射能の測定」の結果から、人工放射性物質による年間被ばく量は、最大限に見積もっても**0.001ミリシーベルト未満/年**と推計されます*。この値は、公衆の年間被ばく線量限度である1ミリシーベルト/年と比べて十分に低い値です。

*推計は、「環境放射線モニタリング指針」平成20年(原子力安全委員会)などから引用
【参考】食品衛生法に基づく食品の放射性物質基準値…一般食品【100ベクレル/kg】・原乳【50ベクレル/kg】・飲料水【10ベクレル/ℓ】

《参考》日常生活と放射線

私たちは、日常生活の身近なところで自然や人工のさまざまな放射線を受けて暮らしています。これらの放射線の量に比べて、今回推計した年間被ばく量0.001ミリシーベルト未満/年は、とても低い量であることがわかります。



Q 原子力災害時に行く、屋内退避とは何ですか?

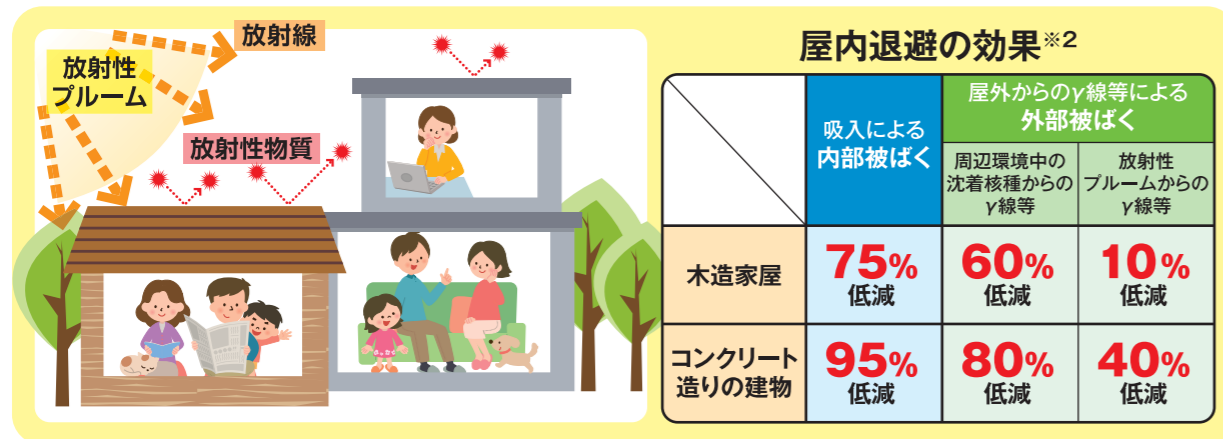


A 屋内退避とは、放射性プルーム(放射性物質が雲状になったもの)が通過するおそれがある時に、家屋等の建物内に退避することです。

原子力災害時に、UPZ^(※1)圏内の住民は、屋内退避することが原則となっています。

放射性プルームが通過するとき、放射性物質の侵入を防ぐことができる屋内にいれば、放射性物質の吸入による内部被ばく量を減らすことができます。また、屋外からの放射線を遮へいする効果により、屋外にいるときに比べて外部被ばく量も減らすことができます。

屋内退避によって、放射性物質の吸入を避け、屋外から届く放射線を減らすことで、屋外で行動するよりも被ばく量を少なくすることができます。



※1 浜岡原子力発電所の場合、発電所から概ね5～31km圏内の地域。
 ※2 「緊急時の被ばく線量及び防護措置の効果の試算について」(平成26年原子力規制委員会)より作成

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中(平成28年10月～12月)、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、平成29年3月23日現在、3号機、4号機及び5号機については施設定期検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局
 静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>

原子力だより No. 172



▲2月9日・10日に、原子力災害が発生した場合に備え、原子力防災訓練が実施されました。原子力防災センターの整備後、また、県の広域避難計画の策定後に初めて行われた原子力防災訓練であり、訓練の成果は、国・県・市町の連携や、避難方法等の検証に役立てられます。

平成28年10月から12月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

平成28年10月～12月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

(詳細は次ページ)

平成28年10月～12月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

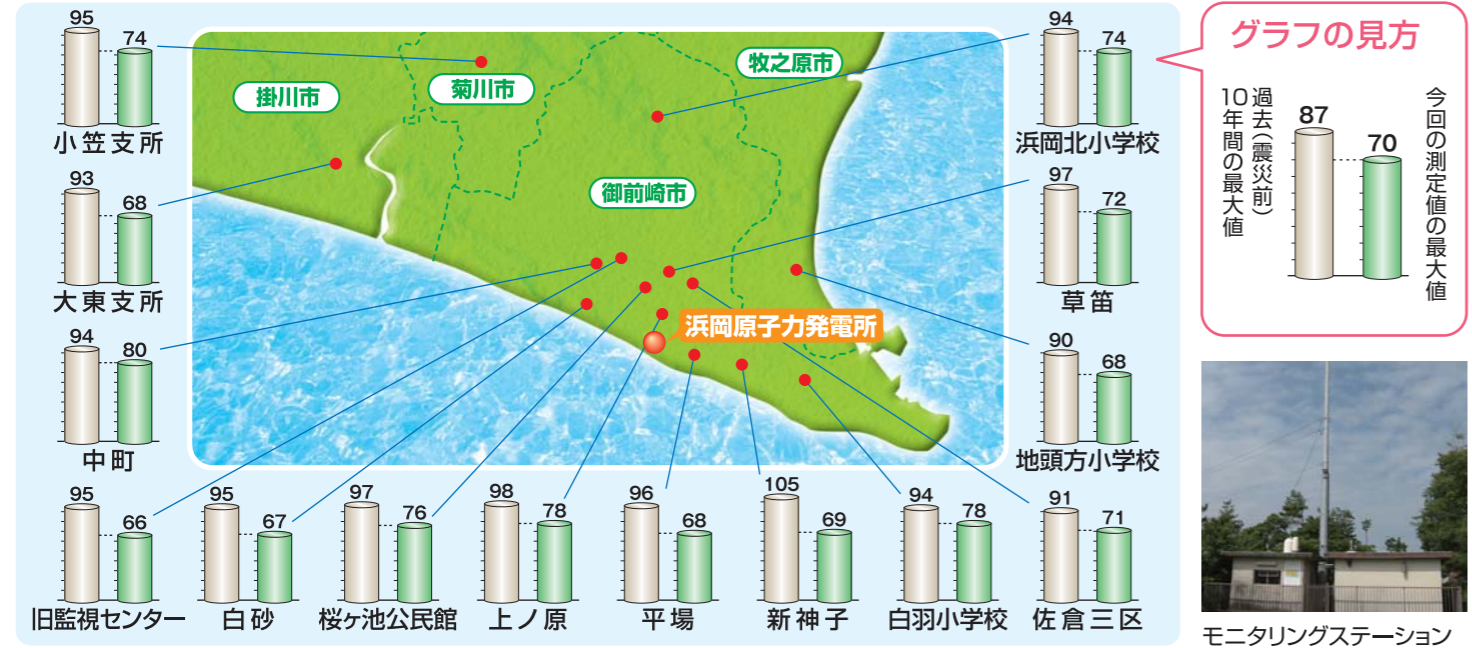
浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。
東日本大震災に伴う、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

空間の放射線の測定

▶1時間当たりの放射線量(線量率)

単位：ナノグレイ/時

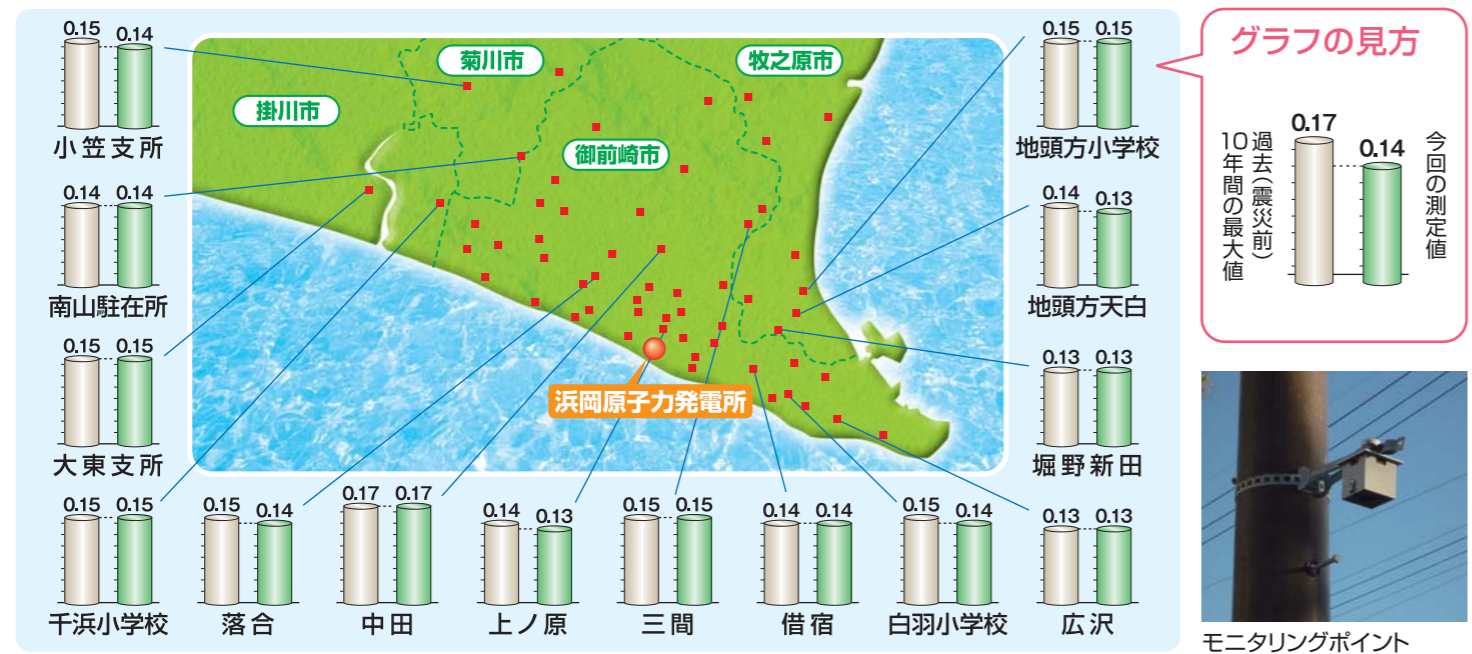
モニタリングステーション(14か所)において、空間の放射線が1時間当たりどのくらいかを連続して測定しています。平成28年10月から12月で過去(震災前)10年間の最大値を超えた地点はありませんでした。



▶3か月間の放射線量(積算線量)

単位：ミリグレイ/90日

57か所のモニタリングポイントにおいて、空間の放射線が平成28年10月から12月の3か月間(90日換算)でどのくらいになるかを測定しました。



放射能調査に用いる単位

- グレイ(Gy)……放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位
- シーベルト(Sv)……吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位
- ベクレル(Bq)……放射能の量を表す単位

- 【参考】
- ミリ(m)……1/1,000 千分の1
 - マイクロ(μ)……1/1,000,000 百万分の1
 - ナノ(n)……1/1,000,000,000 10億分の1

農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。
平成28年10月から12月の間に測定した試料の大半は、過去(震災前)10年間の最大値以下でした。一部の試料については、これを上回りましたが、いずれも国の基準等を大きく下回るものでした。
検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故の影響によるものと推定しました。

▶代表的な試料の放射性セシウム(放射能)の測定値の最大値



今回の「空間の放射線の測定」および「農産物などの放射能の測定」の結果から、人工放射性物質による年間被ばく量は、最大限に見積もっても**約0.02ミリシーベルト/年**と推計されます*。この値は、公衆の年間被ばく線量限度である1ミリシーベルト/年と比べると十分に低い値です。

*推計は、「環境放射線モニタリング指針」平成20年(原子力安全委員会)などから引用
《参考》食品衛生法に基づく食品の放射性物質基準値…一般食品【100ベクレル/kg】・原乳【50ベクレル/kg】・飲料水【10ベクレル/l】

《参考》日常生活と放射線

私たちは、日常生活の身近なところで自然や人工のさまざまな放射線を受けて暮らしています。これらの放射線の量に比べて、今回推計した年間被ばく量約0.02ミリシーベルト/年は、とても低い量であることが分かります。

人工放射線の被ばくの例



自然放射線の日本平均 約2.1ミリシーベルト/年



ココが知りたい! 原子力のクエスチョン

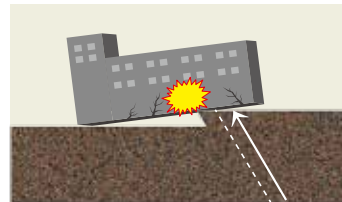
Q 「活断層」とは何ですか？
また、活断層は原子力発電所とどう関わるのですか？



A 地下の地層や岩盤が、周囲から押されて割れたときに、割れた面に沿ってずれ動いて、食い違いが生じた状態を、断層といいます。その中でも、将来も動く可能性のある断層が「活断層」です。

もし、原子力発電所の真下に活断層があって、この活断層が動けば、発電所の設備が壊されてしまうおそれがあります。そのため、活断層が現れている地表の真上には、原子力発電所の安全上重要な建屋や施設等を設置できません。

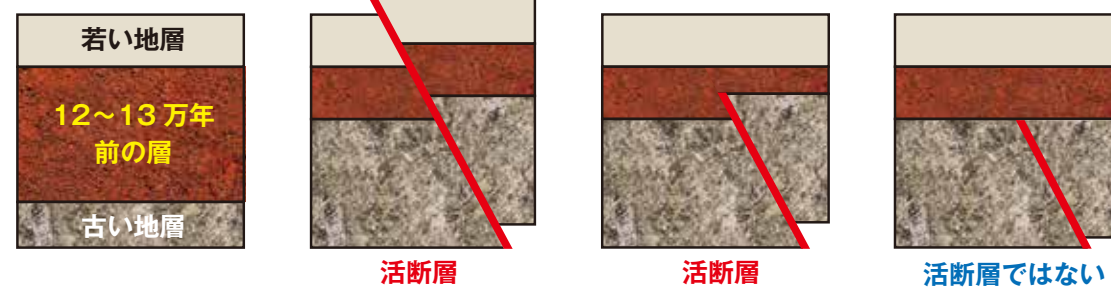
また、活断層が動いて地震を引き起こしても、原子力発電所の安全性には影響しないような対策が必要です。



活断層上に建屋がある場合のイメージ

参考

国の基準で使用される活断層の判断方法（上載地層法）※



※国の基準では、断層のうち後期更新世（約12～13万年前）以降に活動した可能性のあるものを活断層としています。ある断層が、後期更新世以降にできた地層を変位・変形させていれば、この断層は活断層であると判定されます。

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中（平成29年1月～3月）、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、平成29年8月2日現在、3号機、4号機及び5号機については施設定期点検及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局

静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口 3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>

Shizuoka

原子力だより

No.
173



▲平成29年3月27日と28日に、原子力規制委員会が浜岡原子力発電所の敷地内や周辺に分布する断層等を確認する現地調査を実施しました。調査を行った原子力規制委員会の委員は、「科学的データが不足しているため、データを追加提出してもらいたい。」と中部電力に求めました。

平成29年1月から3月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとにとりまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

平成29年1月～3月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

(詳細は次ページ)

平成29年1月～3月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

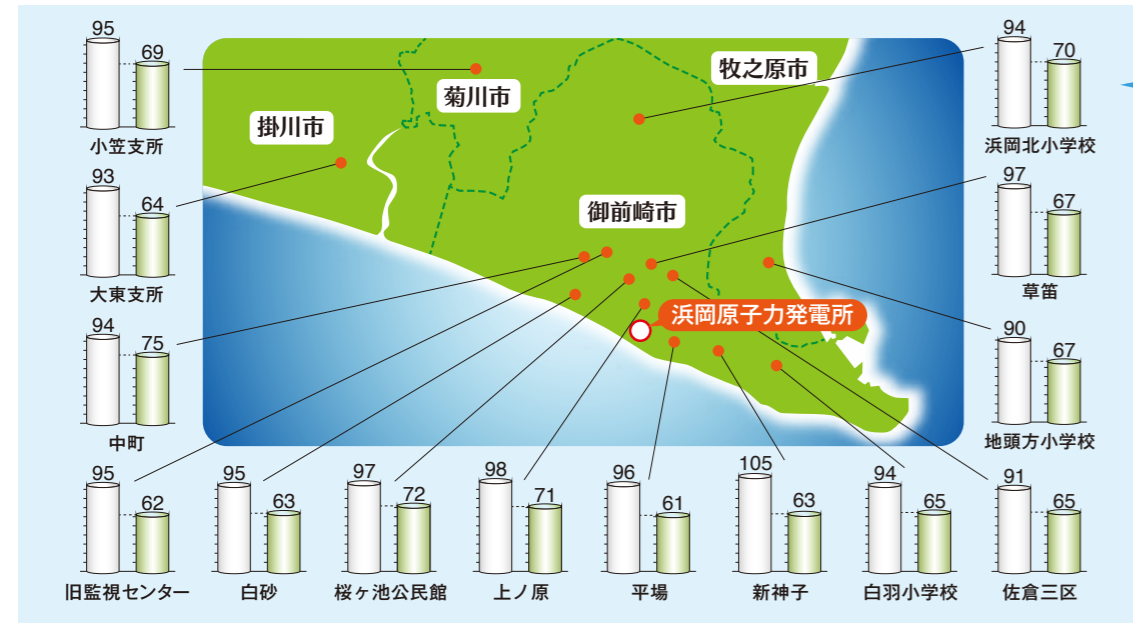
浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。
東日本大震災に伴う、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

空間の放射線の測定

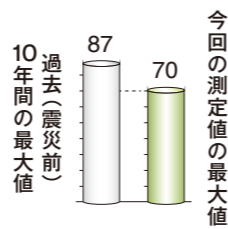
▶1時間当たりの放射線量(線量率)

モニタリングステーション(14か所)において空間の放射線が1時間当たりどのくらいかを連続して測定しています。平成29年1月から3月で過去(震災前)10年間の最大値を超えた地点はありませんでした。

単位：ナノグレイ/時



グラフの見方



モニタリングステーション

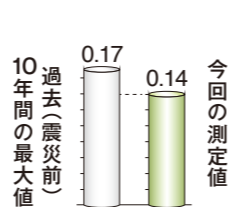
▶3か月間の放射線量(積算線量)

57か所のモニタリングポイントにおいて、空間の放射線が平成29年1月から3月の3か月間(90日換算)でどのくらいになるかを測定しました。

単位：ミリグレイ/90日



グラフの見方



モニタリングポイント

放射能調査に用いる単位

- グレイ (Gy) …… 放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位
- シーベルト (Sv) …… 吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位
- ベクレル (Bq) …… 放射能の量を表す単位

- 《参考》ミリ (m) …… 1/1,000 千分の1
 マイクロ (μ) …… 1/1,000,000 百万分の1
 ナノ (n) …… 1/1,000,000,000 10億分の1

農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。平成29年1月から3月の間に測定した試料の大半は、過去(震災前)10年間の最大値以下でした。一部の試料については、これを上回りましたが、いずれも国の基準等を大きく下回るものでした。検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故の影響によるものと推定しました。

▶代表的な試料の放射性セシウム(137Cs)の測定値の最大値



今回の「空間の放射線の測定」および「農産物などの放射能の測定」の結果から、人工放射性物質による年間被ばく量は、最大限に見積もっても**約0.02ミリシーベルト/年**と推計されます※。この値は、公衆の年間被ばく線量限度である1ミリシーベルト/年と比べて十分に低い値です。

※推計は、「環境放射線モニタリング指針」平成20年(原子力安全委員会)などから引用
 《参考》食品衛生法に基づく食品の放射性物質基準値…一般食品【100ベクレル/kg】・原乳【50ベクレル/kg】・飲料水【原乳10ベクレル/l】

《参考》日常生活と放射線

私たちは、日常生活の身近なところで自然や人工のさまざまな放射線を受けて暮らしています。これらの放射線の量に比べて、今回推計した年間被ばく量0.02ミリシーベルト/年は、とても低い量であるとわかります。

